

2024年（令和六年） 6月14日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

当週(6月6日～12日)の国際石油市場は、6日、続伸の75.55ドルで始まり、先行き需要期に向けた需要増加期待、欧州の利下げ、米国の利下げ期待等を背景に、週末7日にわずかに値下がりがりした以外は、連日堅調に推移し、12日は3営業日続伸の78.50ドルで終わった。ただ、米国の石油在庫は原油・ガソリンとも積み増しの結果となった。

また、中東産パイ原油/東京市場(7月渡し)も、前週(5月30日～6月5日)78.30～84.20ドルの範囲で推移したが、当週は、6月6日79.20ドル、7日80.10ドル、10日80.10ドル、11日81.50ドル、12日82.40ドルと推移した。

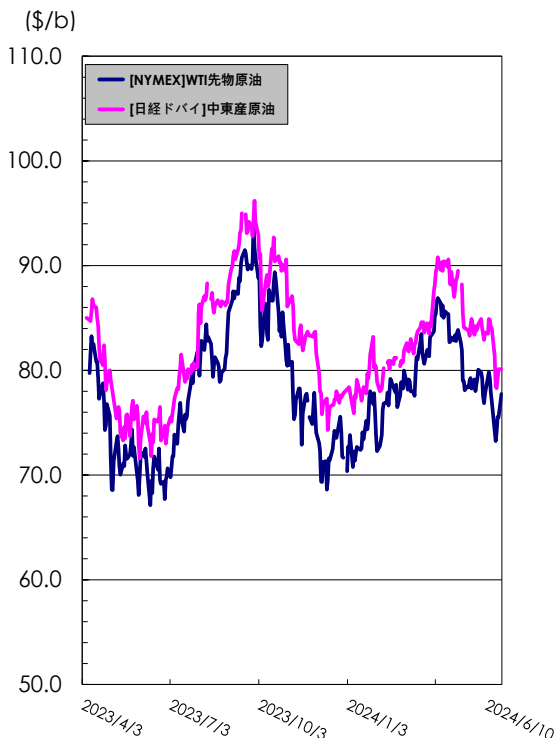
対ドル為替レート(TTM)は前週(5月30日～6月5日)155.30～157.62円の範囲で推移したが、当週は、6月6日155.78円、7日155.81円、10日157.01円、11日157.33円、12日157.21円となった。

財務省が6月7日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、5月中旬の原油輸入平均CIF価格87,467円で前旬比1,092円高、ドル建て88.97ドルで前旬比0.25ドル高、為替

レートは1ドル/156.33円。

そのような中で、6月10日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比横ばい、軽油も同横ばい、灯油も同横ばい(18リットルベース)、ガソリンの全国平均価格は174.8円となった。6月13日～19日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は21.1円(補助金がない場合の次週予想価格195.9円で、固定支給部分10.2円、185円を超える変動支給部分は10.9円)となった。

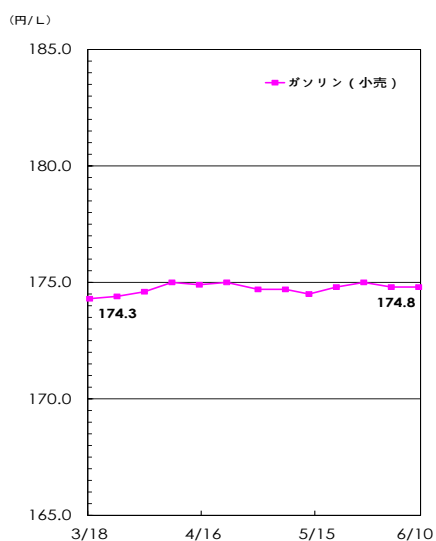
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	6/2 ~ 6/8	2,348 ▼ -80	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	65.3 ▼ -2.2	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	6/8	10,547 ▲ 330	▼ -
価格	中東産原油(日経ドバイ) (\$/bbl)	6/10	80.10 ▼ -1.30	▲ 7.0
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	6/10	77.74 ▲ 3.52	▲ 10.6
	原油CIF単価 (\$/bbl)	5月中旬	88.97 ▲ 0.25	▲ 2.52
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	87,467 ▲ 1,092	▲ 13,857
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	156.33 ▼ -1.57	▼ -20.96
	外国為替TTSレート (¥/\$)	6/10	158.01 ▲ 0.17	▼ -17.58



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	6/2 ~ 6/8	826 ▲ 27	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	736 ▲ 48	▼ -
	輸出	"	58 ▼ -3	▲ -
	在庫	6/8	1,914 ▲ 32	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 6/4 ~ 6/10	83.0 ➡ 0.0	▲ 10.0
		(TOCOM/中部) 6/10	80.7 ➡ 0.0	▲ 1.7
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 6/10	174.8 ➡ 0.0	▲ 5.5

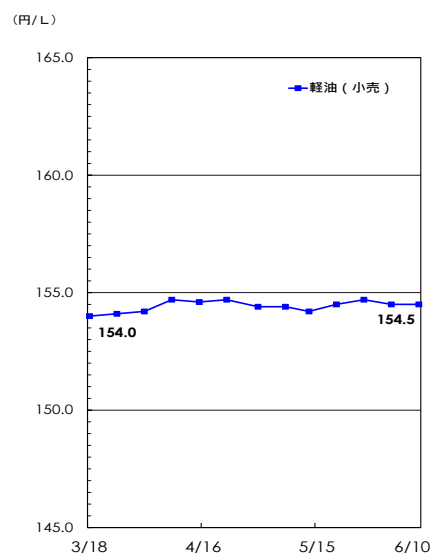
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

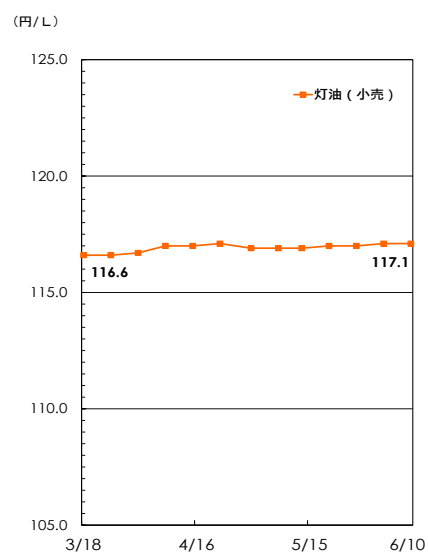
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	6/2 ~ 6/8	670 ▼ -36	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	574 ▲ 18	▲ -
	輸出	"	48 ▲ 28	▼ -
	在庫	6/8	1,662 ▲ 48	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 6/4 ~ 6/10	83.9 ▲ 0.2	▲ 4.7
		(TOCOM/中部) 6/10	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 6/10	154.5 ➡ 0.0	▲ 5.3

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	6/2 ~ 6/8	134 ▲ 19	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	81 ▲ 42	▼ -
	輸出	"	20 ▼ -6	▲ -
	在庫	6/8	1,669 ▲ 33	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 6/4 ~ 6/10	81.5 ➡ 0.0	▲ 6.4
		(TOCOM/中部) 6/10	81.5 ▼ -0.5	▲ 1.5
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 6/10	117.1 ➡ 0.0	▲ 5.5



■ 関連情報

1 海外/原油 (WTI原油先物市場)

前週(5/30~6/5)のNYMEX・WTI先物市場は73.25~77.91ドルの範囲で推移した。

当週、6月6日は、欧州中央銀行(ECB)が金利引き下げを決定、景気回復、需要増加期待から、続伸した。また、サウジのアブドゥルアジズ・エネルギー相は、市場軟化の場合OPECプラスの減産緩和の停止もありうると発言、需給緩和懸念が幾分後退した。7月物終値は、前日比1.48ドル高の75.55ドル。

週末7日は、5月の米国雇用統計が経済の底堅さを示す内容で、早期利下げ期待を後退させたことから、3日ぶりにわずかに反落した。また、前日発表の中国の6月の貿易統計が輸入の前年同月比減少したことも、値下がり要因。7月物終値は、同0.02ドル安の75.53ドル。

週明け10日は、ゴールドマンサックスが需要増大に伴う本年第3四半期の需給ひっ迫を予想、これからのドライブシーズン入りの需要増加期待もあって、反発した。7月物終値は同2.21ドル高の77.74ドル。

11日は、2024年通年の世界の石油需要について、OPEC月報は前月予想に据え置いたものの、米エネルギー情報局(EIA)短期見通しは上方修正、ひき続き、需要増加期待から、小幅続伸した。7月物終値は、同0.16ドル高の77.90ドル。

12日は、5月の米国消費者物価指数が市場予想を下回り、インフレ鎮静化を示すものとされ、早期利下げ期待が拡大し、3日続伸した。ただ、この日発表の先週末の米国石油在庫が、原油・ガソリンとも積み増しであったことが上値を抑えた。7月物終値は、同0.60ドル高の78.50ドル。

2 海外/米国石油市場

6月12日発表の7日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計は、原油が前週比370万バレル増と市場予想(同100万バレル減)に反する積み増し、ガソリンも同260万バレル増と市場予想(同90万バレル増)を上回る増加で、市場の需給引き締め期待に反する内容であった。

EIAによると、6月10日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比8.7セント安の1ガロン3.429ドル(143.0円/ℓ)と7週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比6.8セント安の1ガロン3.658ドル(152.5円/ℓ)と9週連続の値下がり。

ベーカーヒューズ社によると、6月7日時点で、前週比4基減の492基と2週連続で減少した。

3 国内/製品出荷量

石連週報によれば、2024年6月2日~6月8日に休止したトッパー能力は68.4万バレル/日で、前週に対して5.1万バレル/日増加した(全処理能力は323.0万バレル/日)。

原油処理量は234.8万klと、前週に比べ8.0万kl減少。前年に対しては7.3万klの増加。トッパー稼働率は65.3%と前週に対して2.2ポイントの減少、前年に対しては3.9ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、灯油、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/3.4%増、ジェット/23.1%減、灯油/16.2%増、軽油/5.2%減、A重油/9.9%減、C重油/5.5%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比横ばい)。軽油の輸出は4.8万kl(前週比2.8万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べてC重油が減少し、その他の油種で増加した。前年比ではジェット、軽油、A重油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は73.6万kl(対前週7.0%増)と2週連続で増加した。ジェット10.1万kl(対前週11.3%増)、灯油8.1万kl(対前週107.0%増)、軽油57.4万kl(対前週3.1%増)、A重油17.0万kl(対前週19.2%増)、C重油11.0万kl(対前週6.9%減)。

(単位:千L)

	今週 (6/2~6/8)	前週 (5/26~6/1)	前週比
ガソリン	736	688	▲ 48 (7%)
ジェット燃料	101	90	▲ 11 (12%)
灯油	81	39	▲ 42 (108%)
軽油	574	556	▲ 18 (3%)
A重油	170	143	▲ 27 (19%)
C重油	110	118	▼ -8 (-7%)
合計	1,772	1,634	▲ 138 (8%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

4 国内/製品在庫量

6月8日時点の在庫はジェット、A重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはジェット、C重油が減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンは191.4万kl、前週差3.2万kl増。前年に対しては27.4万kl多い。

灯油は166.9万kl、前週差3.3万kl増。前年に対しては23.5万kl多い。

軽油は166.2万kl、前週差4.8万kl増。前年に対しては30.1万kl多い。

A重油は75.1万kl、前週差1.7万kl減。前年に対しては6.3万kl多い。

C重油は177.7万kl、前週差1.7万kl増。前年に対しては13.9万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (6/8)	前週 (6/1)	前週比
ガソリン	1,914	1,882	▲ 32 (2%)
ジェット燃料	792	823	▼ -31 (-4%)
灯油	1,669	1,636	▲ 33 (2%)
軽油	1,662	1,614	▲ 48 (3%)
A重油	751	768	▼ -17 (-2%)
C重油	1,777	1,760	▲ 17 (1%)
合計	8,565	8,483	▲ 82 (1.0%)

5 国内/元売会社製品卸価格

6月4日～10日のドル建て中東原油価格は大きく値下がりし、為替レートも円高で、円建て輸入原油価格は値下がりした。元売会社の卸価格建値は値下げしたものと見られるが、補助金の減額により、6/13～6/19の実質卸価格はわずかに値上がりとなった模様。

6 国内/製品小売価格

6月10日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比横ばいの174.8円、軽油も同よこばいの154.5円、灯油も18%ベースで同横ばいの2,107円(1%ベースでも横ばいの117.1円)。ガソリンは2週ぶりに値下がり止まり、軽油も2週ぶりに値下がり止まり、灯油も2週ぶりに値下がり止まった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが14道府県、横ばいは12県、値下がりが21都府県だった。全国最安値は岩手県の168.3円、その次は岡山県の169.7円であった。他方、最高値は長野県の184.4円。最も値上がりしたのは沖縄県・愛知県(各同1.9円高)、最も値下がりしたのは宮城県(同1.1円安)だった。

次回調査時(6/17)のガソリンの小売価格は、小幅な値動きが予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (6/10)	前週 (6/3)	前週比	直近高値
レギュラー	174.8	174.8	➡ 0.0	23/9/4 186.5
灯油	117.1	117.1	➡ 0.0	08/8/11 132.1
軽油	154.5	154.5	➡ 0.0	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回 (2024第11号) の公表は、6/21 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。